

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	千葉県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	船橋市立八木が谷中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	7	8	1	23	44
生徒数	251	245	293	3	792	

II 研究の概要

1. 研究主題

“チャレンジする生徒を育てよう”

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1・2年生 数学
- 1年生 理科
- 1年生 英語

学校として、当該教科に関する研究実績があり、また少人数授業、習熟度に応じた授業など、学習形態や学習活動の多様化及び学習指導過程の工夫などを実践しやすい教科、学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

○テーマ

- ・ 進んで学ぼうとする生徒を育てる授業方法の研究
- ・ 主体的、意欲的に学習に取り組む生徒を育成し、個に即した指導過程、学習形態の工夫

変化の激しい社会を生きていく上で、これからの教育は“自ら学び自ら考える力を育成することを重視した教育”が大切であるといわれている。

そのためには、

- ・ 知的好奇心や探求心をもって、自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力
- ・ 自らの力で論理的に考え行動する力
- ・ 自分の考えや思いを的確に表現する力
- ・ 問題を発見し解決する能力

といった資質や能力を育成し、体験的・問題解決的な学習を充実させ、自主的、自発的な学習を促進することが求められている。

本校生徒の実態は、明るく素直な性格でのんびりしている生徒が多い。しかし、自主的な活動や計画性と継続的な学習習慣という点では、課題が多い。

本校では学力の向上と定着をめざした研究をおこなっている。基礎・基本を確実に定着させ、個に即した（個に応じて、個を生かす）指導を推進し、自ら学ぶ力を育て、自ら考える力を育てていくことによって、確かな学力を生徒に身につけさせたい、と考えている。

このことから先にあげた研究テーマを設定し、生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導の充実を図っていきたい。

○研究の見通し（仮説）

(1) 教材の開発

発展的な学習や補足的な学習など、個に応じた指導のために生徒が意欲的に取り組む教材を開発すれば、生徒の内発的な意欲を喚起し、

- 「わかる授業」を創造できると考える。
- (2) 個に応じた学習形態や学習活動の多様化  
 学力の向上と定着をめざし、少人数指導、地域の専門家を活用した授業など、学習形態や学習活動の多様化を図り生徒の学習意欲を高めれば、生徒は自ら考え、主体的に判断し、表現したりする力を身につけると考える。
- (3) 近隣小学校、高等学校との連携  
 ・小学校、中学校、高等学校での学習内容（特に理科・数学・英語）を系統立てて指導するために、相互授業参観や研究会を定期的におこない、連携を深める。  
 ・小中高等学校間で教師の交流をおこない授業を実践していく中で、児童生徒の発達段階に応じた指導法や学習内容、指導計画について研究を進めていく。
- (4) 評価活動を取り入れた学習指導過程の工夫  
 学習指導過程に評価活動を積極的に取り入れることによって、生徒は問題意識をもちそれらを自ら継続して追求する力を身につけると考える。
- (5) 学習習慣の定着化  
 学習習慣の定着化を図れば、学習を通して獲得したものを真に自分のものとするとともに、新たな対象に対して自ら学習し発展していくものと考ええる。

○研究の内容・方法

- ・学区小学校や高等学校及び地域社会と連携し、学力向上フロンティアスクール地域推進協議会を設置する。
- ・生徒会活動の充実  
 学校生活を充実させ、生徒が主体的に改善向上を図る活動や地域社会と連携した奉仕活動やボランティア活動を充実させる。
- ・学習指導過程の工夫・改善  
 生徒が課題意識をもち、主体的に学習に取り組めるような指導過程を工夫する。
- ・教材の開発  
 生徒の内発的な意欲を喚起させるような教材の改善、工夫に努める。
- ・個に応じた学習形態や学習活動の多様化  
 特に、数学・理科・英語の授業において、学力の向上と定着をめざし、少人数指導や習熟度別学習を取り入れた学習形態を工夫する。また、少人数指導の効果的な活用や地域と連携した授業づくりを推進する。
- ・小中高等学校授業交流と連絡協議会  
 関係5校（小3校、中1校、高1校）で授業交流会を実施し、発達段階に応じた指導法や学習内容、指導計画について研究を推進する。

平成  
16  
年度

- テーマ  
 平成15年度に同じ

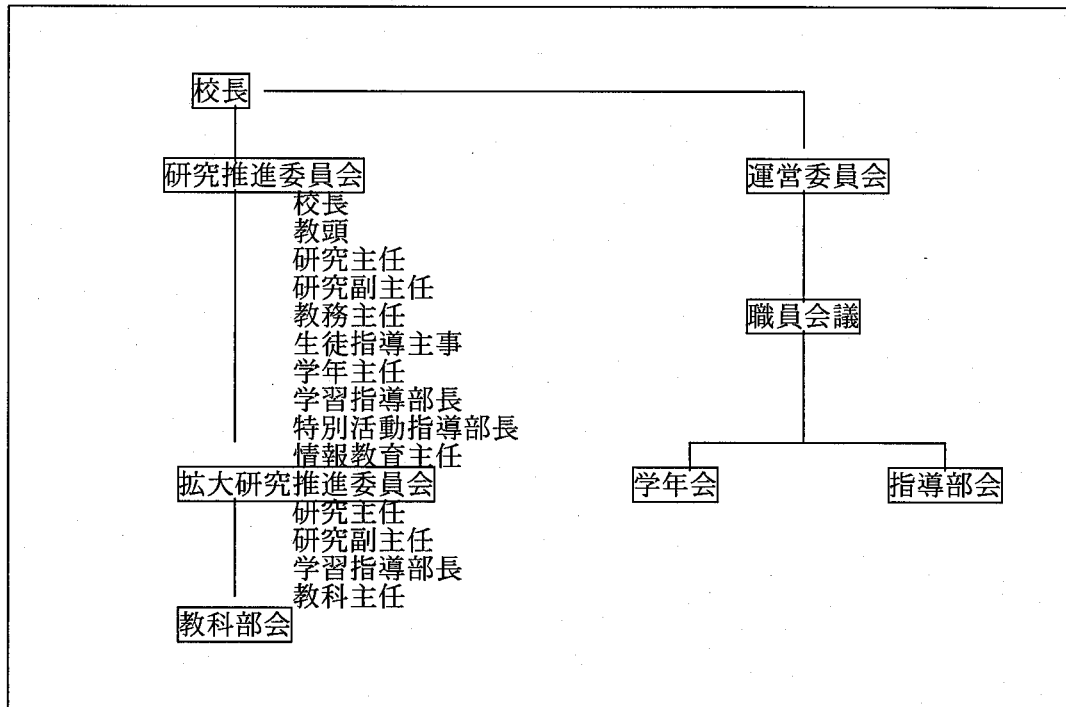
- 研究の見通し（仮説）  
 平成15年度に同じ

○研究の内容・方法

- ・学習指導過程の工夫・改善  
 課題に対して生徒が主体的に取り組み、さらに追究していこうとする態度を育てることができるよう、指導過程を工夫・改善する。
- ・個に応じた学習形態や学習活動の多様化と推進  
 数学・理科だけでなく、他の教科においても学力の定着をめざした、学習形態や学習活動の多様化を推進し、効果的な活用法について研究する。
- ・小中高授業交流と連絡協議会  
 関係5校（小3校、中1校、高1校）で授業交流会を実施し、より効果的な発達段階に応じた指導法や学習内容、指導計画について研究を推進し、まとめる。

- ・研究のまとめ  
2年間の研究についてまとめ、推進地域内外の小中学校に配布する。
- ・指導資料の整理  
指導計画・指導過程・教材・学習形態等々の蓄積された指導資料を整理する。

### (3) 研究推進体制



## III 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

### 1. 研究の成果

本校では、学力向上フロンティアスクールを主に理科、数学、英語を中心にして行っているが、数学科の実践を例にして、成果と課題を紹介する。

#### ○実践

1. 1・2年で少人数・習熟度学習を行っている。
2. 時間割においては、全時間、2クラスを同時展開している。従って教師も3人が同時に授業展開できるように組まれている。
3. 次の3パターンを単元の特徴により使用している。

#### ・パターン1

通常授業…T.T.体制で2クラスを交互に。

単元のまとめ…2クラスが習熟度別に3コース（基礎・応用・発展）に分かれる。

①プレテストを経てコースは自己選択（若干調整）

②ステップアップテスト（到達度確認テスト）により自己評価

#### ・パターン2

通常授業…T.T.体制で2クラスを交互に。

よりきめ細かい指導が必要な題材時…2クラスが3コースに分かれて習熟度別に授業を行う。

①コースは自己選択（若干調整）

②ステップアップテスト（到達度確認テスト）により自己評価

#### ・パターン3

通常授業を全時間3コースに分かれて行う。

- ①均等な集団（人数を均一化。習熟度は考慮しない）
- ②主に図形学習時で行っている。

○成果

1, 2クラスを3コースに分けて行う少人数授業も4年目になり、コース編成各コースの授業内容の決定などの段取りがスムーズに行えるようになってきた。

- コース編成の手順
- ①希望調査を兼ねた事前テストを行う。
  - ②集計後人数のバランスを考え、移動が必要な場合面接を行う。
- 各コースの授業内容
- ①どの教材で、何時間、少人数授業を行うか決定する。
  - ②3コースごとの各時間の授業内容を決定するとともに、場所と担当教師を決定する。
  - ③少人数授業を行う2クラスの授業進度を合わせ、同時にスタートがされるようにする。

自分の希望とは違って、面接により他のコースに移動した生徒にいては、アンケート調査の結果、全体の感想とほとんど差違はなかった。

		はい				どちらでもない				いいえ			
		A	B	C	全体	A	B	C	全体	A	B	C	全体
楽しかった	移	54	44	59	54	39	33	30	33	8	22	12	13
	全	46	53	63	54	41	43	27	37	14	4	10	9
よくわかった	移	62	56	59	59	31	44	24	31	7	0	18	10
	全	33	39	62	45	56	50	33	46	11	11	5	9
積極的にできた	移	46	33	47	44	46	56	47	49	7	11	6	8
	全	40	33	45	39	52	60	47	53	9	7	8	8
またやりたい	移	54	44	53	51	39	44	35	39	8	11	12	10
	全	28	31	45	35	54	53	45	50	17	17	11	15

上記の数は%。小数点以下四捨五入。平成13年度、1年生、関係を表す式での調査。

移 ---- 他のコースを希望していたがそのコースになった生徒。

全 ---- そのコース全体の生徒。

A→B 6名 B→C 16名 C→B 3名 A→C 1名 B→A 13名

結果 Aへ13名 Bへ9名 Cへ17名 計39名の移動があった。

2, 習熟度別の教材内容に、深まりや広がりが出てきた。

- ①正の数・負の数 検定試験を導入したり、問題作りの授業を取り入れたりする。
- ②連立方程式 文章問題を難易度を考慮して3コースに分類する。
- ③平面図形 単純に平等に2クラスを3グループに分ける。
- ④関係を表す式 それぞれのレベルに合った問題作りに挑戦する。
- ⑤1次関数 2元1次方程式とグラフから1次関数の応用まで、3コースに分かれて学習する。

2. 今後の課題

○課題

- 1, 少人数授業を行うにあたっては、3人以上の教師のチームワークが大切になる。そこで、教科部会等の話し合いの場面が必要となるのだが、その時間の確保が大変であった。
  - ・八木が谷中学校では、数学部員6名だけ（他教科の応援なし）で全ての数学の授業を行っている。1, 2年生では2クラスを3人の教師で受け持てるような体制をとっている。この体制は、少人数指導を行う上で非常にやりやすい。
- 2, どの単元の、どこの部分で、少人数授業を取り入れるとより効果的なのか、さらに研究が必要と思われる。1つの単元をすべて少人数で行うことも考えていきたい。
  - ・正の数・負の数については、1年生の意欲にも助けられて、検定試験を柱にした少人数授業のパターンが確立したように思う。しかし、一昨年度からの懸案であった2年生における図形指導の少人数授業を今

年度も行うことができなかつた。「証明」を軸とした少人数指導の取り組みについては、部会でも何回か話し合ってきたが結論がでなかつた。1年生の図形指導のように単純・平等のグループ分けではない習熟度別のグループ分けでぜひ取り組みたいと考えている。

- 3, 蓄積したノウハウにこだわらず、生徒の実態や要求に根ざした授業の内容や形態作りを部員の知恵を出し合つて創造していきたい。
- 4, これから考えていきたいこと
  - ・1つの単元をすべて少人数授業で行う。(平面・空間図形以外)
  - ・図形分野の習熟度別少人数授業。
  - ・授業中、あるいは1時間ごとに他のコースに移動することが可能な少人数授業の形態や方法。
  - ・例えば、C(発展)コースの生徒がA(基礎)コースの生徒にアドバイスできるような、コース間の生徒の交流がある少人数授業の形態や方法。
  - ・3年生での少人数授業の取り組み。

#### IV 学力把握のための学校としての取組

船橋市学力状況調査(県学力状況調査に同じ)を2年間にわたつて実施し(15年度は2月20日)、その変容を調査及び考察する予定。

#### V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究の内容・方法に述べたように、学区小学校や高等学校及び地域社会と連携し、学力向上フロンティアスクールとして研究してきたものを発信していきたいと考えている。

小中学校及び高等学校の連携の現状は次の通りである。

・連携校

船橋市立八木が谷小学校  
船橋市立八木が谷北小学校  
船橋市立咲が丘小学校  
千葉県立船橋北高等学校

・内容

相互授業参観を通して、生徒指導及び教科指導の共通理解を図るとともに、本校学力向上フロンティアスクールとして研究してきたものを協議する。

5月 …八木が谷地区小中連絡協議会の実施  
7月、11月、12月…中学校、各小学校及び高等学校で授業参観、協議を実施

また、今後の方向性として次のようなことを計画している。

- ・学校の枠を越えた授業の交流(小中高の教員が相手校で授業を受け持つ)交流授業を通して、発達段階に応じた指導法や学習内容、指導計画について研究を進め、学習の系統化をはかしていきたい。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                         10～12学級  
                                  13～15学級                       16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       数学                       理科  
                                  外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭

保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無